

kokyosotsushin

## 高教組通信No.1 知事選特集①

2017年5月6日  
兵庫高教組書記局

HP:「兵庫高教組」検索 → 【HSTU】TOP of 兵庫県高等学校教職員組合（お問い合わせフォームもあります）

## 知事選挙は要求実現の絶好のチャンス

## 県政を変え、要求を実現させましょう！

7月2日、兵庫県知事選挙が投開票されます。「地方自治は民主主義の学校」と言われますが、知事選挙は私たちの身近な問題をどう解決していくのか、私たちの要求をどう実現させていくのか、そのことが問われる選挙となります。また、私たちは県職員ですから、私たちの「上司」を決める直接選挙でもあるわけです。

今の兵庫県のままでいいのでしょうか、県「行革」は県民のためになっているのでしょうか。少し立ち止まって、自分たちの県行政について考えてみませんか。高教組は、今後、高教組通信では数回にわたり、兵庫知事選挙特集を組みます。

## 県職員を大切にできない兵庫県政

私たち県職員の賃金は、人事委員会勧告に基づいて決定される、それが大原則です。しかし、井戸県政は2000年度～2005年度には、一時金や12月昇給延伸という形で、そして、2008年度からは賃金・地域手当のカットという形で、人勸によらない賃金削減を行ってきました。両方でなんと16年間にも及びます。緊急避難的な削減ではなく、人勸無視の不当な賃金削減が常態化しているのです。

これほどまでに県職員を大切にできないのが、兵庫県政なのです。（下表参照）

| 県「行革」による賃金カットをめぐる経緯について |             |                         |      |              |                    |
|-------------------------|-------------|-------------------------|------|--------------|--------------------|
| 年度                      | 県「行革」       | 県「行革」による賃金カット           | 年度   | 県「行革」        | 県「行革」による賃金カット      |
| 1999                    | 行財政構造改革推進方策 |                         | 2009 |              | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2000                    |             | 0.3月一時金削減(人勸分0.2月削減はなし) | 2010 | 第2次行革プラン策定   | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2001                    |             | 12月昇給延伸+一時金0.1月削減       | 2011 |              | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2002                    |             | 延伸による削減効果               | 2012 |              | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2003                    |             | 延伸による削減効果               | 2013 | 第3次行革プラン策定   | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2004                    |             | 延伸による削減効果               | 2014 |              | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2005                    |             | 延伸による削減効果               | 2015 |              | 賃金・役職加算・地域手当       |
| 2006                    |             | 12月昇給延伸還元(ただし削減分の補填はなし) | 2016 | 第3次行革プランの総点検 | 賃金・地域手当 役職加算は解消    |
| 2008                    | 新行革プラン      | 賃金・役職加算・地域手当            | 2017 |              | 賃金・地域手当 若年層は賃金削減解消 |

## そして、県民にも冷たい兵庫県政 福祉医療予算 82 億円削減

私たちの賃金を不当にも16年間も削減しておきながら、その財源を県民サービスの向上につなげていないのが、これまでの兵庫県政です。これは、私たち県職員に対する二重の裏切りともいえるのではないのでしょうか。この16年間で福祉医療予算を82億円も削減し、中学校3年生までの医療費無料には後ろ向き。中学生3年生までの無料が実現している市町に対して、県は3割のうち0.5割を負担しているだけです(残りの2.5割は市町が負担)。また、老人医療費助成制度も今年7月で廃止し、井戸県政スタート時に21万7千人が受給していた制度を、わずか1.2万人に削減する新制度に変更しようとしているのです。

「国が責任を持つとっているのだから、私に迫られても応えようがない」

原発再稼働はやめてほしいという県民の声に対して、3月1日の県議会でこのように答弁する井戸知事。県民の原発への不安をどのように感じているのでしょうか。しかも、「国の責任だから」と原発問題への答弁を避ける一方、大飯原発の再稼働差し止め判決に対しては、記者会見で、「判決としては、少し行き過ぎの点がある」と差し止め判決を批判しているのです。また、過去に井戸知事は、関西広域連合長として原発再稼働の事実上「容認」を取りまとめ、そのことが政府と関西電力に「お墨付き」を与える結果となり、関西広域連合は「腰砕け」と批判を受けました。これらのことからわかるように、井戸知事は、結局のところ原発再稼働を容認しているといわれても仕方がないのです。

さらに今、安倍政権に追随し、福島県民の避難者への住宅支援を今年の3月に打ち切りました。井戸知事の原発への姿勢が大きく問われているのです。

こんな兵庫県になってほしい！

知事選は私たちの願いを託す選挙です

「学びへの抜本的支援 給付型奨学金の創設を」  
 「神戸電鉄粟生線守れ」「ヘイトスピーチ規制条例を」  
 「地域から学校と病院と足が奪われている」  
 「病院ベッド削減をやめ、医療・介護の充実こそ」

高教組の加入している「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」に寄せられた、県民の声です。日常の暮らしの中からの切実な声、まだ、まだ、いっぱいあります。

そして、私たちの中にも、こんな兵庫県になってほしいという思いは、いっぱいあるはず。兵庫県知事選挙は、知事を選ぶことを通して、私たち自身の兵庫県への思いを確認できる機会でもあります。あなたの兵庫県への思い、ぜひ高教組まで届けてください。

兵庫県政への願いを「県政要求カード」に書いて、  
 ぜひ高教組まで届けてください。